

1. 概要

<目 的>

持続可能な公共交通を目指し、地域全体で公共交通を支えていく環境を構築するため、**基幹公共交通軸の強化**及び住民等への**利用促進に向けた取組**を行い、**悪循環から好循環への転換を図る**

ベストミックスの構築に向け、基幹公共交通、**特にバスの機能強化策（定時性・速達性・輸送力の向上など）について検討**を実施していく

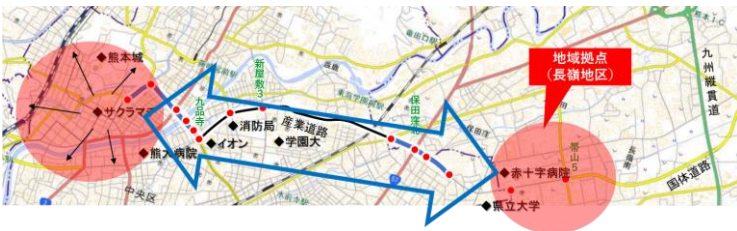
バス専用レーンの導入拡大を検討

2. 今年度の検討状況（協議内容）

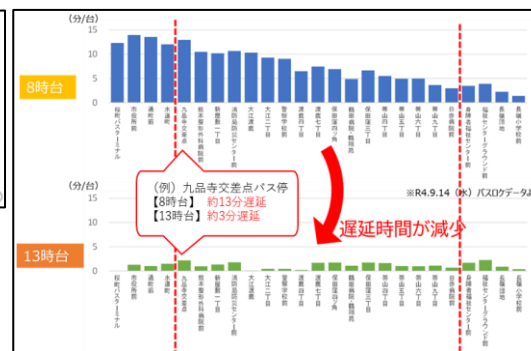
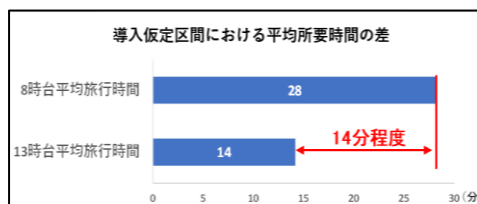
<バスレーン導入効果の定量評価>

公共交通（バス）・自動車交通の現況を踏まえ、8つの基幹公共交通軸のうち、「**益城・空港方面**」及び「**長嶺方面**」の2方面を優先的に検討する方面として選定し、**バスレーン導入を仮定した場合の効果・影響について定量評価を実施**した（※「益城・空港方面」については、市電延伸の検討状況を踏まえ、適切な時期に評価）

長嶺方面における候補区間全体（九品寺交差点～日赤病院間）にバスレーン導入を仮定した場合、**想定される所要時間差は14分程度**となり、**バス遅延時間の減少も見込まれる**。また、保田窪北交差点における中心部向きの**滞留長は170m程度削減見込み**（交通量7.7%削減に相当）



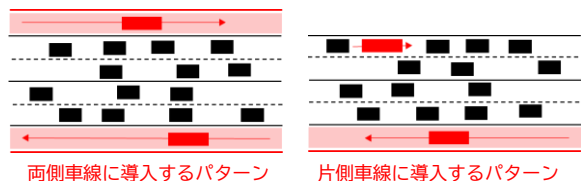
▲長嶺方面におけるバス機能強化区間イメージ
（中心部～長嶺地区）



▲バスレーン導入時に想定される効果
（左から順に、所要時間差、遅延時間の減少、滞留長の削減）

3. 令和6年度の取組

検討においては、様々な導入パターンが想定されるため、**実現性(現地状況・事業費・事業期間)や効果等を踏まえながら、具体的な導入内容(区間・手法)を精査**



実現性や効果等を踏まえ、具体的内容を精査

▲導入内容の精査イメージ

また、バスレーン導入以外についても、**バス利用促進に寄与する施策**（P&RやC&R等）や、**渋滞緩和に寄与する施策**（スマート交差点事業等）を併せて検討



▲バスレーン以外の追加施策イメージ

本部会としての導入内容(案)とりまとめ